

はくぶつかんの 部屋 12

～“字展”は地域交流の場！～



市立博物館で行う企画展には、博物館単独であれば、学校や地域と連携した展示会もあります。今回は地域と結びついた企画展について、ご紹介いたします。

市立博物館では、地域と共同した展

示会として毎年、「ぎのわんの字展」を開催しています。この字とは市町村を細分する区画を表しますが、琉球王国時代に呼ばれていた村を明治政府が1908（明治41）年の沖縄県及島嶼町村制で改称したことが始まりです。また本市は、一部の地域が米軍基地建設等によって接收され、戦前の形態から大きく変化すると共に、かつての地域の様子を語れる方も少なくなっています。このような現状から市内の地域にスポットを当てて紹介し、地域に興味を持ってもらう目的で字展を始めました。

字展では、主にその地域の歴史や文化等を紹介します。また、展示の一部を自治会や地域の方にお越し、自治会紹介や字誌を編さんする地域では資料募集を行う等、地域ならではの活動をPRしています。展示会のタイトルも地域の特徴を活かそうと地元の声も聞きながら決めますが、展示やタイト

ル決めも地元の熱意が伝わってきます。

この字展は、19年度の入門編から始まり、これまで真志喜・伊佐・字宜野湾・喜友名を紹介してきました。6回目となる今回は、「大謝名」を紹介いたします。大謝名は、古くは真志喜・大山も含めて「謝名」と呼ばれ、中山王・察度と縁があり、また、毎年8月十五夜には、「けんか獅子、イキガシーシ（男獅子）」と呼ばれる獅子舞が奉納されるなど、歴史ある地域です。

このような地域と共同した企画展は、地域を知る学びの場となります。また、地域の方にも思い出話の絶えない交流の場、若い世代への継承の場となる展示会です。この機会に、「ぎのわんの字展 おおしやなく獅子按司加那志が護るムラ」をぜひ、ご覧ください。



▲前回の字展（喜友名編）の様子



▲大謝名の獅子舞（2012年）

地域との共同企画展「ぎのわんの字展

「おおしやなく獅子按司加那志が護るムラ」

期間：2月6日（水）～3月3日（日）

場所：市立博物館

入場：無料

問合せ：市立博物館 ☎870-9317

茶

ぐわーゆんたく

106

普天間高校の木々たち

普天間高校内に、たくさん見慣れない樹木があるのをご存知でしょうか。特に裏門付近にある樹木園には、ソリザヤノキ、パノノキ、インドゴムノキなど、沖縄在来でない樹木が見られます。これらは普天間高校の敷地が沖縄県立農事試験場普天間試験地であった頃に植えられたものです。戦前導入されたこれらの樹木は戦禍を免れ、現在に至っています。

普天間試験地はもとも、明治二十一（一八八八）年の中頭高等学校設立から始まり、明治三十五年には中頭郡各間切組合立農事試験場、明治四十年には農学校となり、農学校移転後の大正十二（一九二三）年には、県立農事試験場となりました。昭和六（一九三一）年に農事試験場は真和志に移りますが、普天間は試験地として存続し、甘藷サツマイモや麦などを中心に試験研究を行っていました。当時は現在の普天間小学校もその敷地（農場で、周辺には、中頭地方事務所や教育会館などの公共施設もありました。

この普天間試験地で育成された有名な品種で、「沖繩百号」という品種がありました。多収穫な点が全国的にも評価され、奨励品

種として全国に普及していきました。また、「比謝川一号」という品種もこの地で育成されました。通常、収穫に半年ほど要する甘藷ですが、これは三カ月で収穫できるもので、昭和十九年以降に全県的に普及し、戦時体制下から戦後にかけて庶民に重宝され、命を救った「イモ」として語り継がれています。

現在は、高等学校として人間育成の場ですが、農事試験場普天間試験地であったことを樹木園の木々は伝えていきます。



1935（昭和10）年頃
沖縄県立農事試験場普天間試験地入口

「宜野湾市史」への問合せ
文化課 市史編集係（市立博物館内）

☎870-9317

